河上正秀教授略歴

一九四三年一〇月十五日　富山県富山市東岩瀬町に生まれる
一九五九年四月　富山県立富山高等学校入学
一九六三年四月　東京教育大学教育学部教育学科入学
一九六五年四月　東京教育大学文学部哲学科編入学
一九六七年三月　同　卒業
一九六七年四月　東京教育大学大学院文学研究科倫理学専攻修士課程入学
一九七〇年三月　同　修了　文学修士取得
一九七〇年四月　東京教育大学大学院文学研究科倫理学専攻博士課程入学
一九七五年三月　同　単位取得退学
一九九七年六月　博士（文学）取得（筑波大学）

一九七五年四月　東海大学海洋学部非常勤講師
一九七六年四月　実践女子大学文学部専任講師
一九七九年四月　実践女子大学文学部助教授
一九八七年四月　筑波大学助教授哲学・思想学系、哲学・思想研究科（博士課程）担当
一九八九年四月　筑波大学教育研究科（修士課程）担当
一九九二年四月　筑波大学教授哲学・思想学系
二〇〇一年四月　筑波大学哲学・思想研究科長（人文社会科学研究科専攻長兼任）（～二〇〇二年三月）
二〇〇二年四月　筑波大学哲学・思想学系長（～二〇〇四年三月）

二〇〇四年四月　国立大学法人筑波大学大学院人文社会科学研究科教授、人文社会科学研究科哲学・思想専攻長（～二〇〇六年三月）

同　国立大学法人筑波大学哲学・思想学系長（兼職）（～二〇〇六年三月）

二〇〇五年四月　大学基準協会評価委員（～現在）

二〇〇六年四月

一九八〇年十二月　筑波大学哲学・思想学会評議員（～現在）

一九九九年七月　日本キェルケゴール研究センター理事（～現在）

二〇〇一年四月　筑波大学哲学・思想学会会長（～二〇〇四年三月）

二〇〇三年四月　日本倫理学会監事（～二〇〇四年三月）

二〇〇五年四月　日本倫理学会評議員（～現在）

研究業績

I　著書

『哲人列伝・西洋篇』（勝部真長編）　第一法規、共著、一九七四年一一月

『倫理思想―新しい思索を求めて』　自由書房、共著、一九八四年四月

『ヨーロッパ精神史』　北樹出版、共著、一九八六年二月

『行為と意味―技術時代の人間像』　未知谷、単著、一九九三年十月

『ドイツにおけるキルケゴール思想の受容—20世紀初頭の批判哲学と実存哲学』
創文社、単著、一九九九年二月

『他者性の時代—モダニズムの彼方へ—』
世界思想社、編・著、二〇〇五年四月

Ⅱ 学術論文（主なもの）

「キルケゴールにおける実存と時間」
日本倫理学会編『倫理学年報』第二一集、一九七二年三月

「沈黙と言語—キルケゴールにおいて」
日本哲学会編『哲学』第二三号、一九七三年五月

「悪（ドストエフスキー）」
『実存主義講座』（第7巻）所収、理想社、一九七三年十月

「マックス・シェーラーにおける〈苦悩〉の問題をめぐって」
『実践女子大学文学部紀要』第二〇集、一九七八年三月

「仮名と著作—沈黙の意味するもの」
『理想』第五五五号、理想社、一九七九年八月

「言語の無の問題性—キルケゴールの思想史的位置をめぐって」
『実存と倫理の探求—東と西—』大島康正教授退官記念論集、北樹出版、一九八二年一二月

「ドイツ今世紀初頭におけるキルケゴール思想の影響・受容の局面（1）」
『実践女子大学文学部紀要』第二七集、一九八五年三月

「技術主義時代の親鸞」
『現代思想』Vol. 13-7、青土社、一九八五年六月

「ハイデガーにおける道具分析と技術論」
筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第六号、一九八八年三月

「Th・W・アドルノのキルケゴール論—ドイツ今世紀初頭におけるキルケゴール思想の影響・受容の局面（2）」
筑波大学『哲学・思想論集』第一五号、一九九〇年三月
「ハイデガーによるキルケゴール思想の受容—ドイツ今世紀初頭におけるキルケゴール思想の影響・受容の局面（4）」
筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第一〇号、一九九二年一一月
「ウィットゲンシュタインのキルケゴールへのまなざし—〈倫理的なもの〉をめぐって」
筑波大学『哲学・思想論叢』第一七号、一九九九年一月
「キルケゴールと倫理—戦後日本の受容史断面」
筑波大学『哲学・思想論集』第二六号、二〇〇一年三月
「実存から他者へ—レヴィナス、デリダのキルケゴール読解」
筑波大学『哲学・思想論集』第二七号、二〇〇二年三月
「解釈と生—近代日本の〈実存〉受容の一断面」
筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第二〇号、二〇〇四年三月
The History of Japanese Reception of *Philosophical Fragments*,
Niels Cappelørn, Hermann Deuser and Jon Stewart (eds.), *Kierkegaard Studies: Yearbook 2004*, Walter de Gruyter, Berlin/New York, 2004.
「実存論的主体の他者論的転回—K・レーヴィット『共同的人間の役割における個人』」
筑波大学『哲学・思想論集』第三〇号、二〇〇五年三月
「非同一性の主体性—実存思想以後のキルケゴール読解」
『理想　特集キルケゴール・今』第六七六号、理想社、二〇〇六年三月
「キルケゴール『現代の批判』とわれわれの現代」
松木真一編著『キェルケゴールとキリスト教神学の展望』（橋本淳先生退職記念論文集・キェルケゴール没後一五〇年記念論文集）、関西学院大学出版会、二〇〇六年三月

Ⅲ 翻訳

マックス・シェーラー全集・第9巻『社会学および世界観学論集（上）』
白水社、共訳、一九七七年一一月

『キルケゴールの講話・遺稿集』（第7巻）
新地書房、共訳、一九七九年一一月

G・シュルテ著『哲学のまなざし』
富士書店、共訳、一九八〇年四月

D. Suzuki, Ost und West（鈴木大拙『東と西』）
三修社、共同編・註、一九八一年一月

W・ヤンケ著『実存思想の軌跡』
富士書店、共訳、一九八三年一〇月

Ⅳ その他

「技術の風景に佇む人間―哲学の一つの視角」
『医の統合Ⅰ（医哲学）』日本医事新報社、分担執筆、一九八二年一〇月

「医師と患者―その実存と人間的交流」
『日本医師会雑誌』Vol.103-No.7、日本医師会刊、分担執筆、一九九〇年四月

「キェルケゴールからわれわれは何を学ぶか―戦後日本における〈主体性〉の変貌」
『キェルケゴール研究センター通信』第4号、日本キェルケゴール研究センター発行、二〇〇一年六月